

【大会スケジュール】

【第1日目】 8/28 (金)	第1会場 (3-301)	9：00	10：00	11：00	12：00	13：00	14：00	15：00	16：00	17：00	18：00	19：00	20：00
	第2会場 (3-302)			自主企画シンポジウム1 9：45～11：45		自主企画シンポジウム4 12：00～14：00		若手研究者口頭発表 14：15～16：15					
	第3会場 (3-401)			自主企画シンポジウム2 9：45～11：45		自主企画シンポジウム5 12：00～14：00							
	第4会場 (3-402)			自主企画シンポジウム3 9：45～11：45		自主企画シンポジウム6 12：00～14：00							
	3-404 受付 3-305, 306			自主企画シンポジウム7 9：45～11：45		自主企画シンポジウム7 12：00～14：00				理事会 16：30～18：00	臨時社員総会 18：00～19：00		
受付・クローク 9：15～16：30													
【第2日目】 8/29 (土)	特別会場1 (8-106)	9：00	10：00	11：00	12：00	13：00	14：00	15：00	16：00	17：00	18：00	19：00	20：00
	ポスター会場1 (3-301;302回廊)		学会企画シンポジウム 9：30～11：30			会員集会 12：00～13：00				特別講演 16：00～17：30			
	ポスター会場2 (3-401;402回廊)			ポスター掲示時間 9：30～11：30		ポスター掲示時間 12：00～13：00	ポスター1 13：30～15：30						
	総観会場 (大隈ガーデン)			ポスター掲示時間 9：30～11：30		ポスター掲示時間 12：00～13：00	ポスター2 13：30～15：30					総観会 18：00～20：00	
	受付 3-305, 306							受付・クローク 9：00～18：00					
【第3日目】 8/30 (日)	特別会場2 (14-201)	9：00	10：00	11：00	12：00	13：00	14：00	15：00	16：00	17：00			
	第1会場 (3-301)		大会企画シンポジウム 9：30～11：30										
	第2会場 (3-302)												
	第3会場 (3-401)												
	第4会場 (3-402)												
【第3日目】 8/30 (日)	ポスター会場1 (3-301;302回廊)			ポスター掲示時間 9：30～11：30			ポスター3 13：00～15：00						
	ポスター会場2 (3-401;402回廊)			ポスター掲示時間 9：30～11：30			ポスター4 13：00～15：00						
	3-201 受付				編集委員会 11：45～12：45								
受付・クローク 9：00～17：00													

【アクセスマップ】



《年次大会会場》

メイン会場：早稲田大学早稲田キャンパス 3号館

サブ会場：早稲田大学早稲田キャンパス 8号館（8/29）および14号館（8/30）

J R 山手線 高田馬場駅から徒歩 20 分

西武鉄道 西武新宿線 高田馬場駅から徒歩 20 分

東京メトロ 東西線 早稲田駅から徒歩 5 分

東京メトロ副都心線 西早稲田駅から徒歩 17 分

都バス 学 02（学バス） 高田馬場駅 - 早大正門

東京さくらトラム（都電 荒川線） 早稲田駅から徒歩 5 分

<https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>

《懇親会会場》

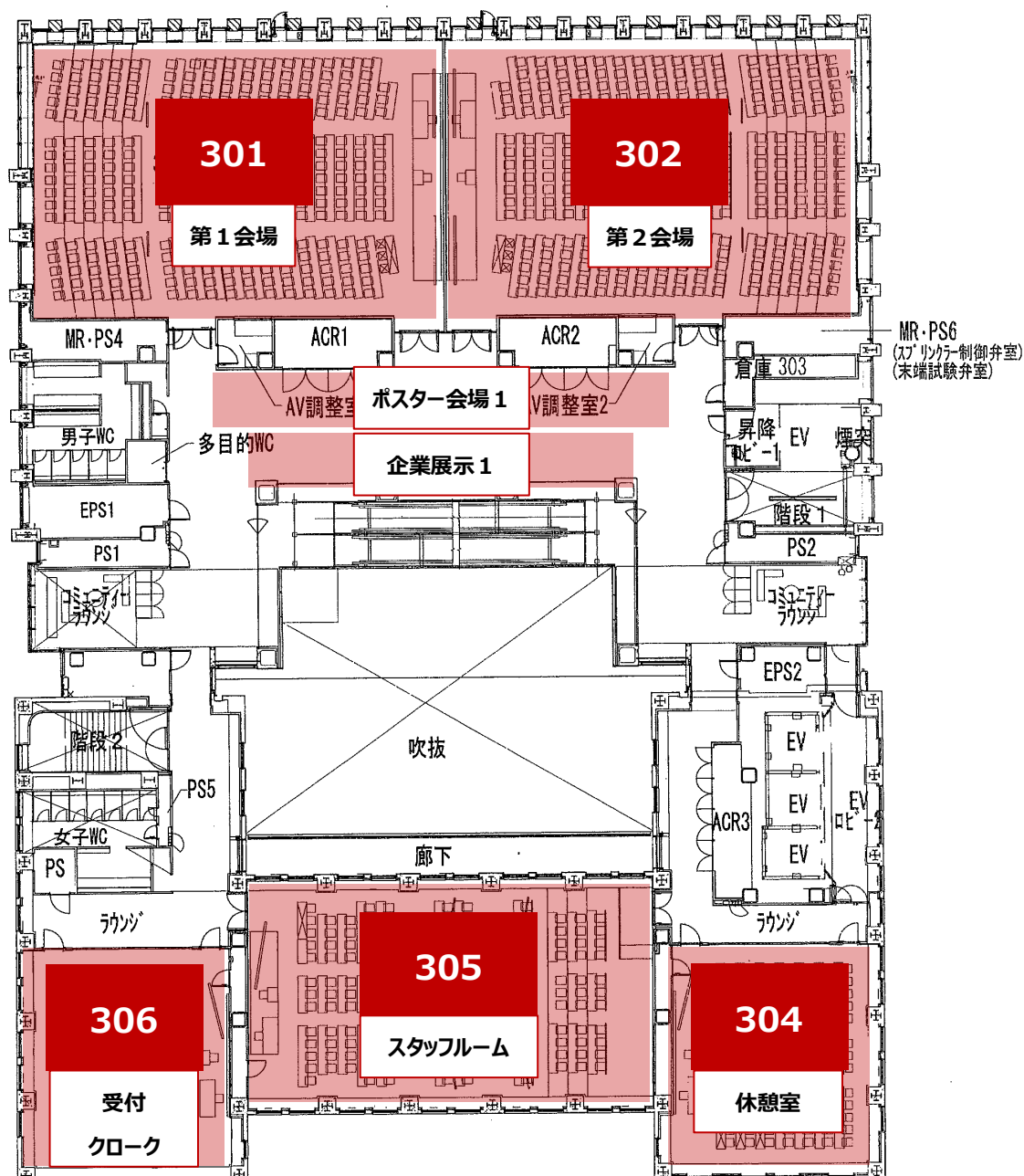
早稲田大学早稲田キャンパス 大隈ガーデン

早稲田キャンパス正門より徒歩 3 分

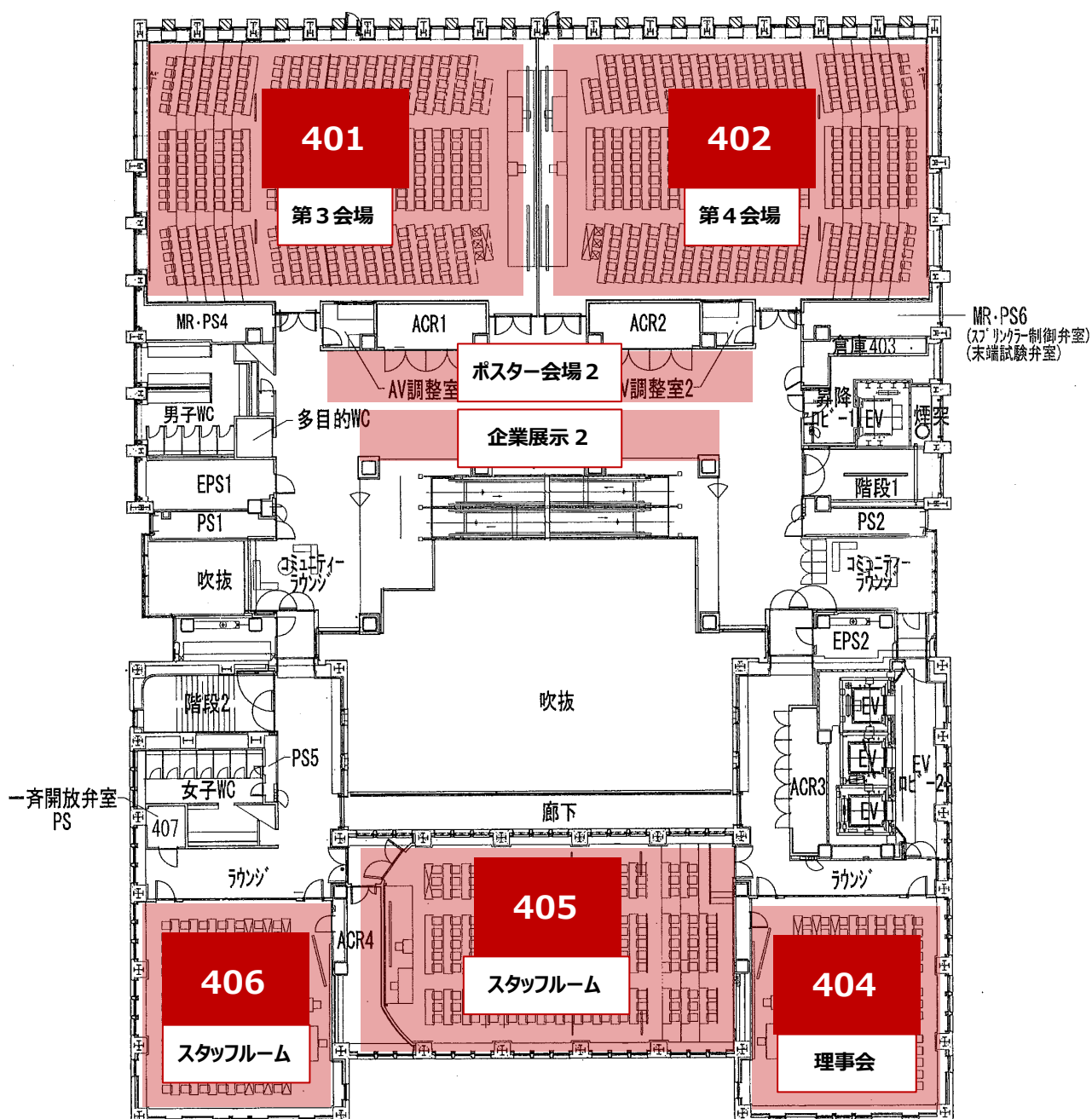
※会場には駐車場がありません。公共交通機関をご利用のうえ、ご来場をお願い致します。

【大会会場フロアマップ】

3号館3階



3 号館 4 階



その他の会場

8 号館 106 教室：学会企画シンポジウム、会員集会、特別講演

※ 8 月 29 日のみの使用となります

14 号館 201 教室：大会企画シンポジウム

※ 8 月 30 日のみの使用となります

3 号館 201 教室：編集委員会

※ 8 月 30 日のみの使用となります

ごあいさつ

2026 年の第 44 回年次大会を早稲田大学早稲田キャンパスにて開催させていただくことになりました。早稲田大学での開催は 2011 年の第 29 回大会以来 15 年ぶりの開催となります。大会準備委員会一同、身の引き締まる思いで準備を進めております。会期は 8 月 28 日から 30 日の 3 日間で、大会プログラムとして一般発表、各種シンポジウム、特別講演を予定しております。本大会の準備スタッフの多くは、早稲田大学人間科学学院に所属しております。 私たちの理念である「多様な学問領域を横断し、世界を探究する複眼的な方法によって、人間の未来を構築する」という精神を反映し、多様な背景を持つ学問領域と行動分析学のつながりをより一層深められる大会を目指しております。

年次大会のメイン会場として使用する 3 号館は 1933 年の竣工から増築を繰り返し、歴史的建造物の外観（旧 3 号館）を忠実に再現した「再現棟」と、最先端の機能を持つ 14 階建ての「高層棟」を融合させたユニークなデザインとなっています。大隈記念講堂や大隈重信像にも近く、早稲田キャンパスの象徴であり、伝統と革新を融合して学术交流をするうえでとても適した場所といえます。また、懇親会は大隈重信の邸宅跡地に併設されている大隈ガーデンハウスで行う予定です。大きなガラス張りの窓が特徴となっており、隣接する大隈庭園が醸し出す四季折々の風景を眺めながら、闊達な議論とともに交流をご堪能いただければと思います。

現在、早稲田キャンパスは再開発工事の最中にあります。その工事期間中での開催となるため、会期中にご不便、ご面倒をおかけすることが多々あるかと思えます。そのような中での開催ではありますが、参加者の皆様が活発な議論や交流を行うことができる快適な環境をできる限り準備させていただくつもりです。それでは皆様のご来場を心よりお待ちしております。

日本行動分析学会第 44 回年次大会準備委員会
委員長 大森幹真

○大会参加者へのご案内

1. 会場

大会会場は、早稲田大学早稲田キャンパス(新宿区西早稲田 1-6-1)です。会場へのアクセス方法については、この冊子または大会ホームページ(<https://j-aba.jp/meeting/2026/>)をご覧ください。

2. 受付

受付は、8月28日(金)～30(日)にかけて9:00から3号館3階305教室で行います(ただし、8月28日は9:15受付開始となります)。予約参加をされた方は、お名前とご所属を印刷した参加章および領収書をお渡しいたします。

※大会会場内では、はっきりと見えるところに参加章を身につけてください。

3. 懇親会

8月29日(土)の18:00から早稲田キャンパス大隈ガーデンにて懇親会を開催します。

4. クローク

お荷物は、3号館3階306教室にてお預かります。ご利用時間は、8月28日(金)9:15～16:30、8月29日(土)9:00～18:00、8月30日(日)9:00～17:00です。なお、日付を越えてのお預かりはできませんので、必ず当日中にお引き取りください。

5. 休憩スペース

大会を通して3日間、3号館3階の304教室に休憩スペースを設けます。この教室は論文交換スペースも兼ねております。追加での休憩スペースのご案内は会場内掲示をご確認ください。

6. 書籍の展示・販売

書籍の展示と販売は3号館3階および4階のパティオで行います。

7. お呼び出し・携帯電話のご使用

原則として会場内でのお呼び出しはいたしません。また、会場内ではスマートフォン・携帯電話などの電源をお切りいただくかマナーモードに設定してください。

8. 会場内の無線LANについて

会場内では、eduroam回線がご利用いただけます。

9. お食事について

会期中のお食事については大学近隣の飲食店をご利用ください。

ー右記QRコード「Waseda ウィークリーMy Waseda Cuisine 私のワセメシ」

ー下記に提示しております、本学近隣のグルメガイドをご確認ください。





10. コピー・ATM

コピー機は近隣のコンビニエンスストアのものをご利用ください。

11. 駐車場

学内に駐車スペースはありません。公共交通機関をご利用ください。車いすのご利用など、必要な場合には準備委員会まで予めお申し出ください。

12. 連絡先

大会本部(3号館3階305教室)または jaba-meeting@j-aba.jp にご連絡ください。

13. その他

喫煙は指定の喫煙所にてお願い致します。またキャンパス内での飲酒はご遠慮いただきますようお願い致します。詳細はキャンパス内の案内をご確認ください。ご不明な点があれば、スタッフの名札を着用した係員までお問い合わせください。

○シンポジウム関係者へのご案内

1. 打ち合わせ室

3号館 405、406（8/28のみ）、3-301、3-302、3-401、3-402（各 8/30 13:30~15:00）にシンポジウム打ち合わせ室を設けております。

2. パソコン、スクリーンなど

シンポジウム会場に Windows パソコンを準備します。また、ブルーレイプレイヤー、DVD プレイヤー、プロジェクタをご利用いただけます。いずれも HDMI および VGA 入力に対応しております。その他の機材については準備委員会にお問い合わせください。

3. 配布資料

配布資料がある場合は、企画者ご自身でご準備ください。

○ポスター発表者へのご案内

1. 会場・時間

8月29日（土）は13:30~15:30の時間帯に、30日（日）は13:00~15:00の時間帯に、3号館3階回廊（ポスター会場1）および4階回廊（ポスター会場2）にてポスターセッションを行います。ポスターセッションの掲示開始時間は両日とも9:30以降となっております。発表者の在籍責任時間は、発表番号が奇数の方は前半の1時間、偶数の方は後半の1時間となります。セッション終了後は各自でポスターの撤去をお願いします。残っているポスターについては、準備委員会で処分いたします。

2. 受付

発表会場デスクにてポスター番号を確認の上、所定のパネルにポスターを貼ってください。

3. 掲示パネル

パネルのサイズは縦180cm、横90cmです、今回のポスター発表は画鋏等の使用は認められておりません。既定の範囲に会場側が用意するテープ等でご掲示お願いいたします。

4. 発表要件

ポスターセッション時間中にポスターを掲示し、所定の在籍時間中に在籍し、参加者と質疑応答することにより、正式発表となります。

5. 筆頭発表者欠席の場合の扱い

筆頭発表者が欠席した場合には、連名発表者の代行を認めます。発表論文集に記載されている筆頭発表者に欠席や交代などの変更があれば、会期前は準備委員会に、会期中は大会本部にご連絡ください。

6. その他

配布資料がある場合は、各自でご準備ください。

○論文交換テーブル

日本行動分析学会では、会員の研究交流を推進するために既発表の論文を著者が展示し、希望者に配布するスペース(論文交換テーブル)を年次大会で設けています。大会2日目と3日目(8月29日・30日)に、休憩室(3号館3階304教室)に用意します。専門誌掲載、紀要論文など発表媒体は問いません。紹介したい自著論文の抜刷(またはコピー)をご持参ください。

原則として、見本の抜刷を1編につき1部準備し、所定の場所に参加者が自由に閲覧できるようにします。抜刷の希望者が所定の名簿に名前と住所またはメールアドレスを記入し、著者が後日送付する方法で運営します。多くの部数をご持参頂ける場合にはこの限りとせず、見本の1部以外は自由にお持ち帰りいただいて結構です。

○日本行動分析学会の会員の方へのご案内

1. 理事会・臨時社員総会

理事会は大会1日目(8月28日)の16:30から、3号館4階404にて行います。

臨時社員総会を大会1日目(8月28日)の18:00から、3号館4階404にて行います。

2. 会員集会

会員集会を大会2日目(8月29日)の12:00から、8号館1階の106教室にて行います。

3. 学会賞授与式・受賞講演

今回の年次大会では学会賞授与式・受賞講演はございません。

4. 編集委員会

『行動分析学研究』の編集委員会を大会3日目(8月30日)の11:45から3号館2階201教室にて行います。

大会プログラム

特別講演

8月29日（土）16:00～17:30（8号館106）

黙って観るコミュニケーション ～重度障害のある人の反応をとらえるコミュニケーション支援 とテクノロジー利用～

Silent Observation in Communication:

Technology-Assisted Communication Support for People with Severe Disabilities

講演 巖淵 守（早稲田大学人間科学学術院）
Mamoru IWABUCHI (Waseda University)
司会 大森 幹真（早稲田大学人間科学学術院）
Mikimasa OMORI (Waseda University)

講演要旨

医療技術の進歩に伴いこれまで生きることが困難であった子ども達が生きられるようになり、障害の重度化・重複化が世界的に進んでいる。彼らの残存能力を引き出していくためには、彼らの運動・認知能力の実態を把握し、それぞれの子どもの発達段階に合わせた効果的な働きかけを行っていくことが重要である。しかし、発話も無く、はい・いいえや好悪の意思が読み取れないなど、実態把握自体が困難なケースが増えている。重度・重複障害のある人には、発話が無く、語りかけても反応がはっきりしない人や、反応はあるがその意味がわからない人が多くいる。重度・重複障害のある子どもたちが示すわずかな変化を、家族をはじめとする身近な支援者が、客観的にかつ簡便にとらえられる手段の確保が早急に求められる。

そこで我々は、身の回りにあるスマートフォンやタブレット端末に備わるカメラとAIを用いて子どもの反応を可視化・分析するアプリをこれまでに開発し、それらを利用した支援を試みてきた。発話が無く、周囲とのやりとりが成立していなかった重度・重複障害のある子どもに対して行った実践では、光や音楽、振動といった刺激提示に随伴する動きの変化を観察・分析することで対象児の運動・認知能力の理解促進に結びついたケースの他、自己刺激行動を減らし、支援者からの関わりに注意を向けることが促されたケースが見られた。

講演では、生成AIなど、最新技術の活用に関する話題にも触れながら、行動分析学により培われた知見がこうした重度・重複障害のある人々のコミュニケーション支援にとって基盤といえる重要な役割を担うとともに、その知見を現場における支援の実践に活かすためにはどのような技術（技法とテクノロジー）や工夫が求められるかについて議論したい。

略歴など

1997年大阪大学大学院基礎工学研究科修了[博士(工学)]、同年ダンディー大学助手に着任。その後、ワシントン大学客員研究員、広島大学大学院教育学研究科助教授を歴任後、2009年から東京大学先端科学技術研究センター准教授。2018年4月より現職。専門は「生活支援工学」であり、ケガや病気などでバリア（困難）を抱える人を支援する、テクノロジーの研究開発や製品化を多数行っている。支援テクノロジーの普及にも力を入れており、多様性を受け入れる社会の実現を目指している。2017年総務省「異能ジェネレーションアワード」協力協賛企業グループ特別賞特別賞。2014年～2017年Microsoft MVP Award受賞。

子どもの意見表明支援に関する行動変容

Behavior Change in Supporting Children's Expression of Views

企画 司会	日本行動分析学会第44回年次大会準備委員会 大森 幹真（早稲田大学人間科学学術院） Mikimasa OMORI（Waseda University）
話題提供	大森 幹真（早稲田大学人間科学学術院） Mikimasa OMORI（Waseda University） 佐治 伸郎（早稲田大学人間科学学術院） Noburo SAJI（Waseda University） 清水 由紀（早稲田大学文学学術院） Yuki SHIMIZU（Waseda University） 高橋 麻衣子（早稲田大学人間科学学術院） Maiko TAKAHASHI（Waseda University）
指定討論	山本 淳一（東京都立大学システムデザイン学部） Jun'ichi YAMAMOTO（Tokyo Metropolitan University）

行動分析学における「言語行動」研究を俯瞰する

ネーミング理論と関係フレーム理論との対比を中心に

An Overview of "Verbal Behavior" Research in Behavior Analysis:
Focusing on Naming Theory versus Relational Frame Theory

企画	武藤 崇 (同志社大学) Takashi MUTO (Doshisha University)
司会	武藤 崇 (同志社大学) Takashi MUTO (Doshisha University)
話題提供	武藤 崇 (同志社大学) Takashi MUTO (Doshisha University) 大森 幹真 (早稲田大学) Mikimasa OMORI (Waseda University)
総合討論	嶋 大樹 (追手門学院大学) Taiki SHIMA (Otemon Gakuin University) 藤巻 峻 (常磐大学) Shun FUJIMAKI (Tokiwa University) 佐々木 三紗 (早稲田大学) Misa SASAKI (Waseda University)

複数の随伴性をレイヤーとして扱う

「非線形随伴性分析」からの示唆

Treating Multiple Contingencies as Layers: Some Implications from Nonlinear Contingency Analysis

企画	武藤 崇（同志社大学） Takashi MUTO (Doshisha University)
司会	松川 昌憲（同志社大学） Masanori MATSUKAWA (Doshisha University)
話題提供	武藤 崇（同志社大学） Takashi MUTO (Doshisha University) 近藤 鮎子（株・エルチェ） Ayuko KONDO (Elche)
指定討論	佐々木 銀河（筑波大学） Ginga SASAKI (University of Tsukuba) 大月 友（早稲田大学） Tomu OTSUKI (Waseda University) 井垣 竹晴（流通経済大学） Takeharu IGAKI (Ryutsu Keizai University)

実験的行動分析の拡がり

Expanding Horizons of the Experimental Analysis of Behavior

企画	藤巻 峻（常磐大学） Shun FUJIMAKI (Tokiwa University)
司会	藤巻 峻（常磐大学） Shun FUJIMAKI (Tokiwa University)
話題提供	黒田 敏数（国際電気通信基礎技術研究所） Toshikazu KURODA (Advanced Telecommunications Research Institute International) 神前 裕（早稲田大学） Yutaka KOSAKI (Waseda University) 後藤 和宏（相模女子大学） Kazuhiro GOTO (Sagami Women's University)
指定討論	丹野 貴行（明星大学） Takayuki TANNO (Meisei University)

労力や関連刺激はどのようなときに好まれるのか

ー 労力のパラドックスについて考えるー

When are effort and effort-related stimuli preferred?

企画	久保 尚也 (駒澤大学) Naoya KUBO (Komazawa University)
司会	腰塚 由子 (駒澤大学) Yuko KOSHITSUKA (Komazawa University)
話題提供	塚本 匡 (専修大学) Masashi TSUKAMOTO (Senshu University) 久保 尚也 (駒澤大学) Naoya KUBO (Komazawa University) 古野 公紀 (立命館大学OIC総合研究機構) Masanori KONO (Ritsumeikan University Open Innovation & Collaboration Research Organization)
指定討論	田島 裕之 (尚絅学院大学) Hiroyuki TAJIMA (Shokei Gakuin University) 平岡 恭一 (弘前大学名誉教授) Kyoichi HIRAOKA (Professor Emeritus, Hirosaki University)

強度行動障害の予防と早期対応

Prevention and Early Intervention for Severe Challenging Behavior

企画	井上 雅彦（鳥取大学） Masahiko INOUE (Tottori University)
司会	井上 雅彦（鳥取大学） Masahiko INOUE (Tottori University)
話題提供	稲田 尚子（大正大学） Naoko INADA (Taisho University) 神山 努（横浜国立大学） Tsutomu KAMIYAMA (Yokohama National University) 岡村 章司（兵庫教育大学） Shoji OKAMURA (Hyogo University of Teacher Education)
指定討論	井上 雅彦（鳥取大学） Masahiko INOUE (Tottori University)

日本における日常生活発達行動支援法（NDBIs）の実装と普及 —切れ目ない包括的発達支援の基盤を作る—

Implementation and Dissemination of Naturalistic Developmental Behavioral Interventions (NDBIs) in Japan: Building a Foundation for Seamless and Comprehensive Developmental Intervention

企画	石塚 祐香（筑波大学） Yuka ISHIZUKA（University of Tsukuba） 韓 天一（東京都立大学） Tiani HAN (Tokyo Metropolitan University)
司会	石塚 祐香（筑波大学） Yuka ISHIZUKA（University of Tsukuba）
話題提供	石塚 祐香（筑波大学） Yuka ISHIZUKA（University of Tsukuba） 山本 淳一（東京都立大学） Jun'ichi YAMAMOTO (Tokyo Metropolitan University) 韓 天一（東京都立大学） Tiani HAN (Tokyo Metropolitan University)
指定討論	竹内 弓乃（ADDS） Yuno TAKEUCHI（ADDS） 岡山 晃一郎（株式会社Minashia） Kouichiro Okayama（Minashia Inc.） 角和 麻衣子（ニューライフ幼稚園） Maiko KAKUWA（New Life Kindergarten）

派生的刺激関係はまだ噛み応えがある：

基礎研究の着眼点・問いの立て方・これからの展望

Research on Derived Stimulus Relation Still Has Plenty to Chew On:

Perspectives on Basic Research, Question Formulation, and Future Directions

企画	杉田 創（早稲田大学） So SUGITA（Waseda University）
司会	杉田 創（早稲田大学） So SUGITA（Waseda University）
話題提供	Hu SIMENG（筑波大学） Simeng HU（University of Tsukuba） 朝倉 智大（関西学院大学） Tomohiro ASAKURA（Kwansei Gakuin University） 杉田 創（早稲田大学） So SUGITA（Waseda University） 大島 康寛（立命館大学） Yasuhiro OOSHIMA（Ritsumeikan University）
指定討論	井上 和哉（同志社大学） Kazuya Inoue（Doshisha University） 茂本 由紀（武庫川女子大学） Yuki SHIGEMOTO（Mukogawa Women's University）

我が国のABA発達支援人材の育成における課題と展望

Training ABA Professionals for Developmental Support in Japan: Challenges and Prospects

企画	熊 仁美（NPO法人ADDS） Hitomi KUMA（NPO ADDS）
司会	熊 仁美（NPO法人ADDS） Hitomi KUMA（NPO ADDS）
話題提供	藤坂 龍司（NPO法人つみきの会） Ryuji FUJISAKA（NPO Tsumiki no Kai） 竹島 浩司（株式会社エルチェ） Koji TAKESHIMA（Elche Co., Ltd.） 井上 雅彦（鳥取大学） Masahiko INOUE (Tottori University)
指定討論	杉山 尚子（千葉大学） Naoko SUGIYAMA（Chiba University）

AIoT技術と行動分析学の学際的融合

行動をより簡単に記録し、より深く分析するためのアプローチ

An Interdisciplinary Convergence of AIoT and Behavior Analysis:

Toward Simpler Measurement and Deeper Analysis of Behavior

企画	是村 由佳（コレムラ技研バラスト事業部） Yuka KOREMURA (Ballast)
司会	是村 由佳（コレムラ技研バラスト事業部） Yuka KOREMURA (Ballast) 大森 幹真（早稲田大学） Mikimasa OMORI (Waseda University)
話題提供	ロペズ・ギヨーム（青山学院大学） Guillaume LOPEZ (Aoyama Gakuin University) 大森 幹真（早稲田大学） Mikimasa OMORI (Waseda University) 横窪 安奈（東京大学） Anna YOKOKUBO (University of Tokyo) 北條 理恵子（長岡技術科学大学） Rieko HOJO (Nagaoka University of Technology)
指定討論	黒田 敏数（国際電気通信基礎技術研究所） Toshikazu KURODA (ATR)

行動主義のオモテとウラ

～社会的背景の中での行動主義の需要と展開を考える～

The Overt and Covert Sides of Behaviorism: Considering the Demand for and Development of Behaviorism within Its Social Context

企画	伊藤 真子（明星大学） Mako ITO (Meisei University)
司会	伊藤 真子（明星大学） Mako ITO (Meisei University)
話題提供	丹野 貴行（明星大学） Takayuki TANNO (Meisei University) 工藤 洸一邦（神奈川県立伊勢原支援学校） Koichiro KUDO (Isehara School for Special Needs Education)
指定討論	福田 実奈（京都外国語大学） Mina FUKUDA (Kyoto University of Foreign Studies)

行動分析学“で”社会課題をどう解決していくか（４） 学会の外に出て行こう！

Behavior Analysis and Society (4): Let's Get Outside the Academic World!

企画・司会	三田地 真実（教育ファシリテーション研究所・法政大学） Mami MITACHI (Educational Facilitation Investigation Laboratory・Hosei University) 松山 康成（東京学芸大学） Yasunari MATSUYAMA (Tokyo Gakugei University)
話題提供	佐藤 智彦（東京慈恵会医科大学） Tomohiko SATO (Jikei Univ. School of Medicine) 小柳津 直哉（ジョージタウン大学同窓会） Naoya OYAIZU (Georgetown University Alumni) 岸名 祐治（東京都公立小学校） Youji KISHINA (Tokyo Public Elementary School) 三田地 真実（教育ファシリテーション研究所・法政大学） Mami MITACHI (Educational Facilitation Investigation Laboratory・Hosei University)
指定討論	松田 壮一郎（筑波大学） Soichiro MATSUDA (University of Tsukuba)

福祉施設における豊富な日常活動を行動分析から読み解く

Decoding the rich daily activities in welfare facilities through Behavioral Analysis

企画	金子 尚弘（白梅学園大学） Naohiro KANEKO (Shiraume Gakuen University)
司会	今本 繁（ABC研究所） Shigeru IMAMOTO (ABCRIDD)
話題提供	沼倉 実（嬉泉） Minoru NUMAKURA (Kisen) 吉岡 衆（どうえん） Shu YOSHIOKA (DOHEN) 芝崎 悦子（コロロ学舎） Etsuko SHIBASAKI (Kololo Gakusha) 森下 直（コロロ学舎） Nao MORISHITA (Kololo Gakusha)
指定討論	渡辺 修宏（国際医療福祉大学） Nobuhiro WATANABE (International University of Health and Welfare)

第 6 回若手研究者口頭発表セッション

6th oral presentation session by young behavior analysts

企画	日本行動分析学会若手研究者優秀発表賞選考委員会 日本行動分析学会若手会
発表者①	櫻井 優大（筑波大学）
発表者②	張 瑜（筑波大学）
発表者③	石川 直生（明星大学）
発表者④	熊崎 菜々子（筑波大学）

ポスター発表

ポスター発表 1

8 月 29 日 (土) 13 : 30 ~ 15 : 30 (3 号館 3 階回廊 : ポスター会場 1)
在席責任時間 奇数 : 前半 1 時間, 偶数 : 後半 1 時間

- | | | |
|-------|---|---|
| P1-01 | 大学生の卒業論文に関わるメモ取り行動の観察 : 教員との相談場面を対象に | ○ 吉岡 昌子
藤 健一 |
| P1-02 | 丹後地域における行動分析学の実装に向けた現状と課題 — 支援者研修会のアンケート調査に基づく伴走型支援の検討 — | ○ 栗原 康通
米澤 舞菜
北田 智子
宮 裕昭 |
| P1-03 | 「明日やろう」にできること — 双曲割引を臨床に活かすには | ○ 原井 宏明
松浦 文香 |
| P1-04 | 小学校 4 年生男子における昼間遺尿への支援
— 一定時排尿誘導と連続成功 (コンボ) 強化手続きの導入 — | ○ 笹田 夕美子
奥田 健次 |
| P1-05 | 実験室実験とオンライン実験の参加者内比較 : 報酬の損失を考慮したセルフ・コントロール選択パラダイムを用いた検討 | ○ 片山 綾
浅井 智久 |
| P1-06 | 消費者向けウェアラブル端末の一致性と実用性の予備的検討
腕時計型・指輪型計 8 機種 of 同一参加者内反復測定 | ○ 若林 実奈
片山 綾
浅井 智久
今水 寛 |
| P1-07 | レンタル傘の設置が傘の盗難に与える影響 | ○ 伊藤 雅隆
吉田 大悟 |
| P1-08 | 「面倒な課題を先に終わらせる」反応の形成
— 注意欠如・多動症児への多段階介入の効果 — | ○ 河村 優詞 |
| P1-09 | 遊び要素を取り入れた言語活動と刺激移行を用いた拗音読み学習支援 | ○ 吉野 智富美
奥田 健次 |
| P1-10 | 言語聴覚士の「小児構音訓練技術チェックリスト」の開発と効果検証 | ○ 矢作 満
山本 淳一 |
| P1-11 | 条件性抑制手続きにおけるタイミング行動の正確性 — ラットにおけるテスト不安 — | ○ Terhoch Gabriel
Sadahiko Nakajima
Maria H. Hunziker |
| P1-12 | 張り紙提示によるごみ選別行動のコントロール
— 「個人攻撃の罠」から逃れるために — | ○ 中尾 将大 |
| P1-13 | 教職員の休憩行動に関する予備的検討 — テキストマイニングによる質的分析 — | ○ 岡本 直人 |
| P1-14 | プロンプト依存を示す知的発達症を伴う ASD 児における食事の自発的遂行 : 遠隔プロンプトから音声データへの段階的フェイディング | ○ 村浦 新之助 |
| P1-15 | ゴールデンハムスターの問題箱脱出学習 | ○ 中島 定彦
臼井 茉白 |

- | | | |
|-------|---|------------------------------------|
| P1-16 | ヒトを対象とする反応形成研究の実験方法論の探索的検討 | ○ 山下 智也
折原 友尊
竹内 康二
丹野 貴行 |
| P1-17 | ASD 児における課題場面での休憩選択の提示が標的行動および課題・休憩の選択率に与える影響 | ○ 武藤 豊
石塚 祐香 |
| P1-18 | 共感的な態度を促す教示が会話場面における相互の反応に与える影響：多層ベースライン法と処遇交代法を併用した時系列的変化の検討 | ○ 大島 康寛
三田村 仰 |
| P1-19 | 特別支援学級在籍児童の行動問題に対する SST とスクールキャッシュユの効果 | ○ 照沼 あずさ
松永 悟
河村 優詞 |
| P1-20 | 書字に苦手さを抱える ASD 傾向の児童に対する刺激シェイピングを用いた指導の効果 | ○ 川村 颯
半田 瞳 |

ポスター発表 2

8 月 29 日 (土) 13 : 30 ~ 15 : 30 (3 号館 4 階回廊 : ポスター会場 2)
在席責任時間 奇数 : 前半 1 時間, 偶数 : 後半 1 時間

P2-01	学級全体を対象としたトークン・エコノミー法による課題従事行動の形成及び逸脱行動の抑制効果の検討	○ 吉見 祐太
P2-02	読経行動の機能と制御変数の検討 : お経誕生, 広がり, その行末	○ 渡辺 修宏 小幡 知史
P2-03	神経発達症児に対する触覚に関するオノマトペの命名指導	○ 小幡 知史 渡辺 修宏
P2-04	査読者向け AI 利用方針は査読行動をどのように制御するのか : ルール支配行動からの記述的分析	○ 松田 壮一郎 菅原 大地
P2-05	視覚刺激の変化がハトの固定コストと変動コスト選択に及ぼす効果	○ 王 宇辰 佐伯 大輔
P2-06	企業の環境施策に大学生はいくら支払うか —環境問題種別, 時間遅延, 距離, 性格特性の影響—	○ 富田 悠生
P2-07	文節単位提示による書字行動と視線機能の拡張	○ 渡邊 貴子 大森 幹真
P2-08	宿泊型体験活動における行動分析学的支援の整理 —多様な学びを支える環境調整と行動支援に着目して—	○ 矢野 善教
P2-09	発達障害児の手洗い行動自立への支援効果の検討	○ 小童谷 優月 矢作 満 熊 仁美 加藤 宗規 山本 淳一
P2-10	抑うつ者の刺激関係づけの測定法の開発と刺激関係づけの特徴の検討 —漢字迷路課題の妥当性の検討—	○ 茂本 由紀
P2-11	自閉スペクトラム症児を対象とした同一見本合わせ課題における対構成手続きから標準的な手続きへの段階的移行介入の効果	○ 岩見 芽依 米山 直樹
P2-12	場面緘黙の傾向を示す幼児に対する指示語の発声を介した課題場面における発声促進の検討	○ 福田 琉華 米山 直樹
P2-13	自閉スペクトラム症児における PECS による要求行動を標的行動とした好みと強化価の検討	○ 香田 姫奈 米山 直樹
P2-14	正規分布に従う VR スケジュール下では、要求反応数の分散が大きくなるとラットの強化後反応休止が短くなる	○ 吉田 拓人 澤 幸祐
P2-15	算数の文章問題を図示するスキルの習得 —立式の手がかりを自ら生み出す問題解決行動の形成—	○ 島岡 次郎 島宗 理
P2-16	不登校生徒に対する 2 桁×2 桁のかけ算に関する GenAI-PL : 生成 AI を用いた教材の生成と遠隔による学習支援の展開	○ 佐藤 亮太朗

- | | | |
|-------|--|----------------------------|
| P2-17 | 小学校における学校規模ポジティブ行動支援（SWPBS）の実施が児童の出席率に及ぼす影響（2） | ○ 松山 康成 |
| P2-18 | 校長の携行物と動作が生徒の自発的接近行動に及ぼす効果
ー透明エプロンを用いた休み時間巡回の検討ー | ○ 榊原 岳 |
| P2-19 | PECS を使用する知的能力障害を併せ持つ自閉スペクトラム症児の要求言語行動の行動型及び行動連鎖に関する研究 | ○ 富貴澤 萌子
石田 美怜
高浜 浩二 |
| P2-20 | 中学校通常学級における集団随伴性の適用が生徒間の相互作用に与える効果 | ○ 二階堂 梓
高浜 浩二 |

ポスター発表 3

8 月 30 日 (日) 13:00～15:00 (3 号館 3 階回廊: ポスター会場 1)
在席責任時間 奇数: 前半 1 時間, 偶数: 後半 1 時間

P3-01	労力を媒介としたハトの大きさの相対的弁別の形成とその転移	○ 久保 尚也
P3-02	自閉スペクトラム症児の言語コミュニケーション指導における社会的支援ロボット: 言語オペラントとロボットの機能に着目したシステムティック・レビュー	○ 潘 天屹 松田 壮一郎
P3-03	オートクリティックとオプトイン・アウトによるナッジが選択行動におよぼす効果	○ 井垣 竹晴 八賀 洋介
P3-04	刺激ペアリング手続きにおける「注意」の引き出し方に関する検討 ～Brown et al.(2023)論文のレビューより～	○ 鈴木 りえ子 丹治 敬之
P3-05	大学生のスピーチ行動に対する行動スキルトレーニングと習慣逆転法の効果ー実験プロトコルの提案ー	○ 櫻井 優大 松田 壮一郎
P3-06	不穏行動のレベル分析を用いた地域生活支援の一事例ー生活リズムの再構築と不穏行動の予兆把握, 強化を活用したチーム支援ー	○ 中山 浩二 財部 志穂
P3-07	イベント文脈における感情状態報告の変化: 大学祭前・中・後の比較	○ 熊崎 菜々子 松田 壮一郎
P3-08	高齢者施設における BPSD への行動支援目標に関する検討ー集団生活への影響を踏まえた本人支援ー	○ 石川 愛 山中 克夫
P3-09	大学生を対象とした刺激ペアリング手続きによる相対音感能力向上の検討ーハミングを用いた音声刺激の影響ー	○ 椎原 彩葉 米山 直樹
P3-10	映像内のモデルとの類似性が学習性無力感の生起に与える影響	○ 小林 彩乃 澤 幸祐
P3-11	古典的条件づけにおける部分強化消去効果: 個々の学習曲線の特徴	○ 二瓶 正登 松本 昇
P3-12	囚人のジレンマ状況下におけるハトの協力選択: 利得行列・連続選択・強化遅延の効果	○ 佐伯 大輔 田中 沙羅
P3-13	音声提示された日本語文中の単語の意味予測における文脈の効果	○ 藤川 華帆 中鹿 直樹
P3-14	子どもの協力行動とセルフコントロール: 社会的ジレンマ課題を用いた検討	○ 空間 美智子 伊藤 正人 井垣 竹晴 和田 彩紀子
P3-15	医学部生を対象とした外科結紮手技指導 ー共通の流暢性目標を設定したスモールステップ訓練の効果検証ー	○ 吉原 雅人 島宗 理
P3-16	特別支援学校中学部の生徒の適切な返答行動に対する PTR に基づく支援の効果	○ 田中 善大 庭山 和貴 大対 香奈子

- | | | |
|-------|--|-----------------------------------|
| P3-17 | ASD 児における刺激等価性形成に対する言語媒介の役割 | ○ Hu Simeng
松田 壮一郎 |
| P3-18 | 場面緘黙を主訴とする高校生への行動的介入
ー生活場面で話せる相手を増やすための段階的試みー | ○ 兒玉 和志 |
| P3-19 | ブンチョウを対象とした迷信行動の実験的検討 | ○ 高岡 航汰
高野 裕治
友永 雅己
澤 幸祐 |
| P3-20 | Contingency adduction が点配列パターンの組み合わせ拡張に及ぼす効果 | ○ 小原 健一郎
大島 研介 |

ポスター発表 4

8 月 30 日（日）13：00～15：00（3 号館 4 階回廊：ポスター会場 2）
在席責任時間 奇数：前半 1 時間，偶数：後半 1 時間

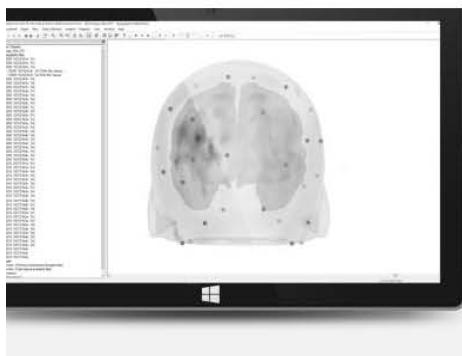
P4-01	教室参加が不安定であった児童の保護者に対する行動コンサルテーションの効果検討	○ 本田 暉 仁藤 二郎
P4-02	AI 画像生成に用いたプロンプトを推測する課題における消去バースト—反応強度と陰性単語の選択率—	○ 島宗 理
P4-03	小中学生の不登校事例に対する保護者への行動コンサルテーションを通じた再登校支援	○ 井森 萌子 仁藤 二郎
P4-04	ASD リスク児における時間間隔の刺激性制御	○ 田邊 暁正 大森 幹真
P4-05	共同注意場面における注視・選択反応間のパターンの分析	○ 東 美穂 木内 愛奈 大森 幹真
P4-06	クラウド型タスク管理ツールと AI を活用した PDCA サイクルの実装—行動指標の設計と自動測定システムに基づいた段階的な介入—	○ 釧持 英里子 平野 貴嗣 片岡 茉理 櫻井 優大 島宗 理
P4-07	マウスにおけるヒント希求行動の課題間転移	○ 後藤 和宏 幡地 祐哉
P4-08	ETBD の計算モデルによる FI・FR スケジュール下のパフォーマンスの検討	○ 章 博約 脇田 真清 望月 要
P4-09	小学校通常学級における非依存型集団随伴性と自己報告を用いた実践—援助行動を標的行動として—	○ 大塚 大輝
P4-10	刺激ペアリング手続きと 3C 学習法による漢字書字指導の効果	○ 野田 航
P4-11	ABA 療育における個別支援計画：本人支援に関する IEP 短期目標の 5 領域への再分類の試み	○ 是村 由佳 門屋 ちひろ 土岐 祥子
P4-12	大学生を対象とした顔写真とネパール語の見本合わせ課題における単語学習効果の検討	○ 中畑 有理 米山 直樹 道城 裕貴

P4-13	ADHD モデル動物としての EL マウスの遅延価値割引課題における衝動性への atomoxetine 投与量の効果	○ 麦島 剛 國生 桜叶 稲村 千颯 今井 魁星 高石 真唯 村山 百香 吉田 萌 竹明 玲菜 永井 友幸 森寺 亜伊子 久保 浩明
P4-14	字形手がかりイラストを用いた継次的刺激ペアリング手続きが漢字書字の習得と維持に及ぼす効果	○ 市田 千晴 塚本 匡
P4-15	高労力・大強化子選択肢への選好度に対する累積強化子量表示の効果	○ 田島 裕之
P4-16	ハトの系列反応における信号強化効果の検討	○ 石川 直生 丹野 貴行
P4-17	VR システムを用いた障害体験型作業療法教育の実施可能性	○ 磯 直樹 鈴木 誠 在原 菜々花 山本 淳一
P4-18	「行動」概念の多様性と心理学的説明の構造 ーポスト・スキナーの行動主義を軸としてー	○ 福田 実奈 尾澤 利隆
P4-19	遅延割引課題と関係するセルフ・コントロール尺度の開発	○ 下谷 晶子 佐伯 大輔
P4-20	ASD 幼児に対する家庭での階段降段練習指導による効果に関する検討	○ 鈴木 帆乃夏 矢作 満 熊 仁美 加藤 宗規 山本 淳一



研究計画に、確かな指標を。

行動観察や課題成績に加えて、視線や筋活動などの補助指標から、介入や訓練の小さな変化も見逃さずに記録します。



artinis

近赤外分光法装置 NIRS



tobii

アイトラッキング



cometa

無線EMG/IMU計測システム



設置のための相談や、デモンストレーションなど、お気軽にお問い合わせください。



<https://www.archivetips.com>

sales@archivetips.com

アーカイブティップス株式会社

ABC 観察記録から始める 発達支援

その子に合った保育を見つける
4つのチャレンジ

田中善大【著】 ● B5判 / 定価 2090円 (税込)

応用行動分析学 (ABA)・ポジティブ行動支援 (PBS) による、チーム支援を解説した保育現場で活用できる支援方法。



新刊

施設職員のための 組織行動マネジメント [OBM] 入門

行動障害のある人へのチームアプローチ

村本淨司【著】 ● A5判 / 定価 3080円 (税込)

福祉現場における組織行動マネジメントの導入から支援方法までを具体的に解説。ABAの原理を活用した最新のマネジメント。



新刊

応用行動分析学 (ABA) × 音楽療法 気になる子への 音あそびレシビ

すぐに使える楽譜・音源付き

野呂文行【監修】 佐々木かすみ【著】

● A5判 / 定価 2200円 (税込)

応用行動分析学 (ABA) と音楽療法を融合した楽しく遊べる音あそび。二俣泉先生 (昭和音楽大学教授) 推薦!



新刊

気になる子どもが変わる 先生のための 学校でできる保護者支援

応用行動分析学によるアプローチ

岡村章司【著】 ● A5判 / 定価 2530円 (税込)

応用行動分析学をベースに、学校でできる保護者支援について基本的な姿勢から具体的な連携方法までを具体的に解説する。



困った行動から考える ペアレント・サポート・ プログラム (PSP)

平澤紀子【著】 ● B5判 / 定価 1870円 (税込)

叱って止めさせるから、よさを伸ばす応援へ! 子どもの行動の意味を理解することで、子どものよさや頑張りに気づいていく。



発達で気になる子どもへの 日常生活発達行動支援法 (NDBIs)

「楽しい! やりたい! できた!」を引き出す応用行動分析学

山本淳一【監修】 石塚祐香【著】

● B5判 / 定価 2860円 (税込)

子どものコミュニケーションを「見える化」し、できる行動を増やす日常生活発達行動支援法 (NDBIs) の入門書。

応用行動分析学 (ABA) テキストブック

基礎知識から保育・学校・福祉場面への応用まで

野呂文行【監修】

永富大輔・朝岡寛史【編著】

● B5判 / 定価 3960円 (税込)

多くの演習問題から学ぶことができ、授業や研修会のテキストとしても最適な応用行動分析学を学ぶための入門書。



ABA 早期療育プログラム DTT の理解と実践

一般社団法人東京 ABA 発達支援協会【監修】

橋川佳奈【編著】

● B5判 / 定価 2640円 (税込)

課題をスモールステップで取り組む DTT (ディスクリート・トリアル・トレーニング) を実践するための1冊。



動画で学ぶ 障害福祉入門

サービスの質を向上させるための理論と実践

大石幸二【編著】 野崎陽弘【著】

● A5判 / 定価 1980円 (税込)



VB 指導法

発達障がいのある子のための
言語・コミュニケーション指導

メアリー・リンチ・バーベラ【著】 杉山尚子【監訳】 上村裕章【訳】

● A5判 / 定価 3740円 (税込)

いじめ防止の3R

すべての子どもへのいじめの予防と対処

ロリ・アーンズパーガー【著】

奥田健次【監訳】 冬崎友理【訳】

● A5判 / 定価 3300円 (税込)



発達障害のある子の パーソナルデザイン

「ほくにぴったり」のノウハウとコツを見つけて

添島康夫・霜田浩信【編著】

● B5判 / 定価 2420円 (税込)



幼稚園や学校で話せない子どものための 場面緘黙支援入門

園山繁樹【著】 ● 四六判 / 定価 1760円 (税込)

保育者ができる 気になる行動を示す 幼児への支援

応用行動分析学に基づく実践ガイドブック

野呂文行・高橋雅江【監修】 永富大輔・原口英之【編著】

● B5判 / 定価 2090円 (税込)



Tel 03-3263-3817

Fax 03-3263-2410

〒102-0071 東京都文京区湯島 2-1-15 ヒキタカ湯島ビル 2 階

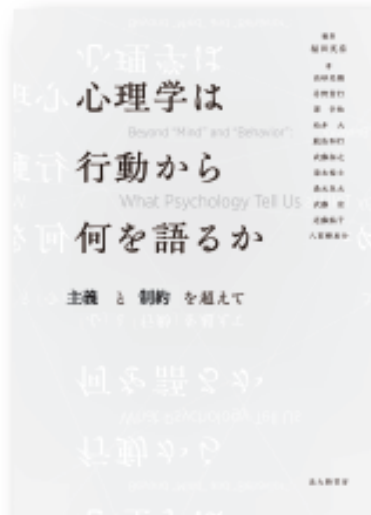
E-mail: info@gakuensha.co.jp <https://www.gakuensha.co.jp/>

最新刊

「行動とは何か」を問うのではなく
「行動」から心理学という営みを問い直す

心理学は行動から 何を語るか

主義と制約を超えて



A5・352頁
本体 4,200円＋税
2026年9月4日発売

福田実奈 編著
高砂美樹、丹野貴行、澤幸祐、松井大
鮫島和行、武藤拓之、清水裕士、森元良太
武藤崇、近藤鮎子、八重樫勇介 著

行動を扱うのは「行動主義」だけではない。認知心理学、社会心理学、神経科学、臨床心理学——「心」を探究するあらゆる学問領域が「行動」を手がかりとしてきた。では、各領域の研究者は「行動」から何を語り、いかに「心」を捉えようとしてきたのか。特定の主義や方法の制約を超え、「行動」から心理学という営みを問い直す。



B5上装・416頁
本体 7,200円＋税

2022年10月刊行
**ドムヤンの
学習と行動の原理**
[原著第7版]

マイケル・ドムヤン 著
澤原宏次・坂野雄二 監訳

学習と行動に関する基礎理論とその広範な活用を収めた米国で評判のテキスト。待望の邦訳。人の行動を扱う学問の基盤となる書。



A5・208頁
本体 2,400円＋税

2026年2月刊行
**子どもの理屈から
はじめる特別支援教育**

赤木和重 編著

障害特性の理解だけでなく、子どもたちの理屈（その子なりの理由）から考える、これまでになかった特別支援教育のテキスト。



A5・232頁
本体 3,200円＋税

2024年12月刊行
**心理学・教育学研究のための
効果量入門**

Rを用いた実践的理解

中村大輝 著

ジャーナルでの研究報告に必要な効果量について体系的に学べるテキスト。Rコードと論文の記載例を交えて理論と実践を紹介。



A5・264頁
本体 2,500円＋税

2017年6月刊行
**心理学からみた
食べる行動**

青山謙二郎、武藤崇 編著

重要な研究を厳選して紹介しつつ、食行動のコントロールにおける「心理学的メカニズム」を解説する。食行動の異常も取り上げる。



A5・256頁
本体 2,700円＋税

2023年11月刊行
**知的障害児の
心理・生理・病理** [第2版]

エビデンスに基づく特別支援教育のために
勝二博亮 編著

重要な研究を厳選して紹介しつつ、食行動のコントロールにおける「心理学的メカニズム」を解説する。食行動の異常も取り上げる。



A5・264頁
本体 3,500円＋税

2025年7月刊行
**経験
サンプリング法入門**

集中的縦断研究のデザインと分析を学ぶ

ナイアル・ボルジャー、ジャン＝フィリップ・ロレンツ 著 馬崎由佳 訳
調査対象者の行動・感情データをリアルタイムで短期間に繰り返し収集する調査手法。その理論から実践ノウハウまでを完全ガイド。

北大路書房

〒603-8303 京都市北区東野十二坊町 12-8
☎: 075-431-0361 FAX: 075-431-9393

HP: <https://www.kitaohji.com> X(Twitter): @kitaohji_syobo
E-mail: eigyo@kitaohji.com

図解・スキナーの『言語行動』をめぐる冒険

行動分析学による言語心理学入門

武藤 崇 著



行動分析学を学ぶ者なら誰もが知る名著、B.F. スキナーの『言語行動 (Verbal Behavior)』。470ページを超えるボリュームに、チョムスキーによる痛烈な批判、そしてシェイクスピアなどの文学作品からの引用の多さも相まって、いつしか「知ってはいるが、読んだことはない本」というイメージに。本書は、この『言語行動』を各章ごとに図表を交えてわかりやすく案内。さらに、刊行から約70年の時を経た今だからこそ改めて注目すべきトピック——かつて小説家を志したスキナーが編み出した言語理解の仕組みが、データとフィードバックで言葉を学ぶAIのメカニズムと重なるという事実など——を歴史的な変遷も交えて展開する。

A5判 並製 240頁 定価 3,520円

不登校の子どもと親から頼られる先生になる 場面別・声かけフレーズ集

西木 めい 著



不登校や子どもの抱える悩みの糸口を手繰り寄せるために、日々のコミュニケーションの足場となってくれる声かけフレーズ集。

A5判 並製 216頁 定価 2,640円

家族と支援者のためのひきこもりサポートプログラム ひきこもるところとつながるための全6回

齋藤 暢一朗 著



関わり方に迷う家族と支援者へ。心理教育をもとに、ひきこもりの構造や子どもの心理、関わり方まで具体的に伝える6回プログラム。

A5判 並製 200頁 定価 3,300円

学校現場で使える アンガーマネジメント入門 感情と上手に付き合う方法

大野 裕 監修／平澤千秋 著



思春期の子どもたちの日常生活にはいろいろなストレスがある。自分で自分の感情をコントロールして、しなやかに対処していこう。

A5判 並製 130頁 定価 2,970円

不眠症に対する認知行動療法マニュアル 改訂版

日本睡眠学会教育委員会 編



本書は、対面で個人向けに、不眠のための認知行動療法 (CBT-I) を行う際の実施手引きと患者向け資料をまとめたものである。

B5判 並製 170頁 定価 3,520円

基礎から学ぶ イメージの認知療法 包括的実践ガイド

A・ハックマン他 著／伊藤絵美 監修



イメージは認知療法の新しい知見の一つである。本書は臨床家に向けイメージの研究と実践について解説したものである。

A5判 並製 300頁 定価 4,950円

こころの不調に悩む人のためのセルフ・コンパッション “声”とともに自分らしく生きるCFT練習帳

C・ヘリオット＝メイトランド他 著／石村郁夫 訳



自己批判や声の体験 (幻聴) に苦しむ人に、コンパッション・フォーカスト・セラピーを通して、自分を支える力を育てるセルフヘルプ本。

A5判 並製 248頁 定価 4,180円

子どものトラウマに気づくとき 家庭・施設・学校でできる〈こころのケア〉

M・G・ミンツ 著／野坂祐子 訳



子どもが逆境体験に遭遇したときに抱く不安や疑問に答え、回復における身近なおとなの役割と具体的なケアの道筋を明らかにする。

A5判 並製 240頁 定価 3,520円

複雑性PTSDセルフケア・ワークブック 自分自身を取り戻すために

T・M・グリーンバーグ 著／野坂祐子 訳



トラウマインフォームドケアの視点から、ひとりで学べる心理教育と対処法を提供する、複雑性PTSDセルフケア・ワークブック。

A5判 並製 272頁 定価 3,520円

臨床心理学

精神療法

Vol.26 No.4 特集 ソーシャルジャスティス

Vol.52 No.3 特集 悲嘆の精神療法

増刊第17号 特集 26ケースで学ぶ臨床心理アセスメント

増刊第13号 特集 すべての精神科医が、精神疾患に悩めるすべての人々に精神療法を届けるために

B5判160頁／年6回発行／定価1,980円 (増刊2,860円)

B5判130頁／年6回発行／定価2,420円 (増刊3,300円)

ψ 金剛出版

〒112-0005 東京都文京区水道1-5-16
Tel.03-3815-6661 Fax.03-3818-6848

<https://www.kongoshuppan.co.jp/>
価格は税込 (10%) 表示です。

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| ① 覚える
覚えたことがなぜ思い出せなくなるのだから | 岡市広成◎著 在庫僅少 |
| ② 飲む
あなたは何をどのように飲んでますか? | 磯 博行◎著 在庫僅少 |
| ③ やせる
肥満とダイエットの心理 | 今田純雄◎著 |
| ④ 元気に老いる
実践心理学の立場から | 岡市洋子◎著 |
| ⑤ 生まれる
発生生物学から見る胎児の世界 | 杉岡幸三◎著 |
| ⑥ 決める
意思決定の心理学 | 中西大輔◎著 |
| ⑦ 吸う
喫煙の行動科学 | 島井哲志◎著 |
| ⑧ 食べる
食べたくなる心のしくみ | 青山健二郎◎著 |
| ⑨ 休む
ストレスと対処法 | 投石保広◎著 |
| ⑩ 話す
話すときに何が起きているのか? | 穴戸恵美子◎著 |
| ⑪ 眠る
心と体の健康を守る仕組み | 松田英子◎著 |

飼いネコから飼育者まで

うまくやるための強化の原理



行動分析学のやさしい入門書
「人間を含めた動物の行動は、その行動を行った直後の結果に影響を受ける」
これをジャンプさせたリジツフルな同意を好人物にしたいとき、「強化の原理」は天からの贈り物になる

うまくやるための強化の原理

飼いネコから飼育者まで

DON'T SHOOT THE DOG!

The New Art of Teaching and Training

カレン・ブライア◎著

河嶋 孝 / 杉山尚子◎訳

この本に書かれた行動分析学の原理は、人間や動物の行動に興味を持つ方にとっては、必ずしも目新しいものではないはずだ。しかし、本書に書かれた行動の修正技術には、悪い行動を改めようとする場合であっても、そこに「学ぶ」「新しい行動を身につける」という前向きな視点が入っていることに気がつくられると思う。行動分析学という、何やら堅苦しく小難しい響きがあるが、実は、すべての生きとし生けるものの幸福を願う科学なのである。——本書「訳者より」(杉山尚子) 後略

ISBN:978-4-931199-55-2

定価1,540円 B6判 210ページ

行動の原理

Richard M. L. Gregory
Principles of Behavior
Eighth Edition

Principles of Behavior
Eighth Edition

二瓶社

行動の原理

Principles of Behavior
Eighth Edition

リチャード・W・マロット / ケリー・T・コラー ◎著
富樫耕平 / 松岡弘修 / 岡嶋裕史◎訳
行動分析学の初学者から中級者向けの入門書。行動の原理が普段の生活に与える影響をユーモラスな語り口で説いていく。物語風のスタイルで書かれながらも科学的な厳密さを保ち、この分野における重要な発見や考えをまとめてある。学習目標や重要な用語、理解度を確認するための復習問題も豊富に掲載。

ISBN:978-4-86108-092-0

定価5,940円 B5判 528ページ

はじめての応用行動分析

日本語版第2版

Applied Behavior Analysis for Teachers
Fifth Edition

P.A. アルバート / A.C. トルトマン ◎著

佐久間 徹 / 谷 晋二 / 大野裕史◎訳

「行動とは何か」「行動をどのようにとらえるか」原書は行動分析学の入門書として古くから有名な1冊。実践家は常にデータに基づいて自分自身の実践を評価し、有効な指導法を見つけていかなければならない。本書にはそうした姿勢が一貫して強調されている。

ISBN:978-4-86108-015-9

定価3,520円 B5判 416ページ

はじめての応用行動分析

日本語版第2版

Applied Behavior Analysis for Teachers
Fifth Edition

P.A. アルバート / A.C. トルトマン ◎著

佐久間 徹 / 谷 晋二 / 大野裕史◎訳

「行動とは何か」「行動をどのようにとらえるか」原書は行動分析学の入門書として古くから有名な1冊。実践家は常にデータに基づいて自分自身の実践を評価し、有効な指導法を見つけていかなければならない。本書にはそうした姿勢が一貫して強調されている。

ISBN:978-4-86108-015-9

定価3,520円 B5判 416ページ

行動主義を理解する

行動、文化、そして進化

William M. Baum
Understanding Behaviorism
Third Edition

Understanding Behaviorism
Behavior, Culture, and Evolution
Third Edition

二瓶社

行動主義を理解する

行動、文化、そして進化

UNDERSTANDING BEHAVIORISM:
Behavior, Culture, and Evolution
Third Edition

ウィリアム・M・ボーム ◎著

森山哲美◎訳

ヒトやヒト以外の動物がなぜそのような行動するのか。行動を理解するとはどういうことなのか。行動を科学することは可能なのか。行動にかかわる根本的な問題を改めて考える。

ISBN:978-4-86108-090-6

定価5,280円 A5判 456ページ

行動変容法入門

日本語版第2版

Behavior Modification: Principles and Procedures
Sixth Edition

レイモンド・G・ミルデンバーガー ◎著

野呂文行 / 佐々木銀河 / 青木康彦 / 神山 努◎訳

応用行動分析学の学び初めに最適な1冊。学部生や院生、教育、福祉、リハビリテーションなどの現場で働く専門職の人たちに、長年にわたって教科書として利用されてきた「行動変容法入門」(2006.1) 待望の改訂版。

ISBN:978-4-86108-091-3

定価5,940円 B5判 576ページ

行動変容法入門

日本語版第2版

Behavior Modification
Principles and Procedures
Sixth Edition

レイモンド・G・ミルデンバーガー ◎著

野呂文行 / 佐々木銀河 / 青木康彦 / 神山 努◎訳

応用行動分析学の学び初めに最適な1冊。学部生や院生、教育、福祉、リハビリテーションなどの現場で働く専門職の人たちに、長年にわたって教科書として利用されてきた「行動変容法入門」(2006.1) 待望の改訂版。

ISBN:978-4-86108-091-3

定価5,940円 B5判 576ページ

自閉症児と絵カードでコミュニケーション

PECSとAAC

アンディ・ボンディ / ロリ・フロスト ◎著

園山繁樹 / 竹内康二 / 門真一郎◎訳

A Picture's Worth
PECS and Other Visual Communication Strategies in Autism
Second Edition

アンディ・ボンディ / ロリ・フロスト ◎著

園山繁樹 / 竹内康二 / 門真一郎◎訳

ISBN:978-4-86108-086-9

定価2,200円 A5判 176ページ

自閉症児と絵カードでコミュニケーション

PECSとAAC

アンディ・ボンディ / ロリ・フロスト ◎著

園山繁樹 / 竹内康二 / 門真一郎◎訳

A Picture's Worth
PECS and Other Visual Communication Strategies in Autism
Second Edition

アンディ・ボンディ / ロリ・フロスト ◎著

園山繁樹 / 竹内康二 / 門真一郎◎訳

ISBN:978-4-86108-086-9

定価2,200円 A5判 176ページ

チャレンジング行動

強度行動障害を深く理解するために

Challenging Behaviour
Understanding Challenging Behaviour

エリック・エマソン / スチュワート・L・アインフェルド ◎著

園山繁樹 / 野口幸弘◎監訳

自傷行動や攻撃行動、破壊的行動、多動、不適切な社会的行動など、こうした行動が生じるメカニズムを明らかにしつつ、望ましい行動を促す介入方法および介入プロセスについて解説する。いまだ重度知的障害のある人たちが強度行動障害を示す人たちが虐待の対象となる事例が報告される本邦において本書が果たす役割は大きい。

ISBN:978-4-86108-089-0

定価3,080円 A5判 264ページ

チャレンジング行動

強度行動障害を深く理解するために

Challenging Behavior

エリック・エマソン / スチュワート・L・アインフェルド ◎著

園山繁樹 / 野口幸弘◎監訳

自傷行動や攻撃行動、破壊的行動、多動、不適切な社会的行動など、こうした行動が生じるメカニズムを明らかにしつつ、望ましい行動を促す介入方法および介入プロセスについて解説する。いまだ重度知的障害のある人たちが強度行動障害を示す人たちが虐待の対象となる事例が報告される本邦において本書が果たす役割は大きい。

ISBN:978-4-86108-089-0

定価3,080円 A5判 264ページ

二瓶社

TEL 03-4531-9766 FAX 03-6745-8066
e-mail info@niheisha.co.jp

●二瓶社の書籍は全国の書店でお求めいただけます。
出版企画も承っております。左記までお気軽にお問い合わせください。

日本能率協会総合研究所 広告（１頁）

準備中



有斐閣 出版案内

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町2-17

<https://www.yuhikaku.co.jp/>

表示価格は税込

感情・パーソナリティの心理学

ままならなさを
理解するために

有光興記 編著 箕浦有希久・喜入 暁・武藤世良 著

感情やパーソナリティの「ままならなさ」。それをどう理解し
たらよいのかを読者と一緒に探求します。学びを促すツールが
豊富なYuhikakuシリーズの一冊。 Yuhikaku 四六判 定価2640円



サイエンティスト・プラクティショナー入門

心理職をめざす
人のために

武藤 崇 編著

堀越 勝・石山裕菜・大屋藍子 著

Yuhikaku 四六判
定価2310円

心理職の「職責」や「倫理」の基盤となる「科学者―実践家モ
デル」の考え方やスキルが学べる日本初の教科書。



心理学研究のための倫理ガイドブック

はじめての人にも
わかる原則と手続き

日本発達心理学会 監修

片桐正敏・能智正博・仲 真紀子 編

A5判
定価2640円

今や学部生にも必須の「研究倫理」の基礎から最新の論点までを
カバーした、初学者にもやさしい、コンパクトで実用的な手引き。



心理調査の基礎 改訂版

心理学方法論を社会で
活用するために

日本心理学会監修 サトウタツヤ・鈴木直人 編

「認定心理士(心理調査)」資格対応の一冊を改訂。定価2090円



臨床心理学入門 改訂版

多様なアプローチを
越境する

岩壁 茂・福島哲夫・伊藤絵美 著

有斐閣アルマ四六判
定価2420円

今に生きる古典理論から現代に必要な知識までをわかりやすくま
とめた入門書を、社会的状況の変化や学問の進展を踏まえて改訂。

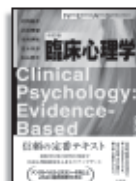


臨床心理学 改訂版

丹野義彦・石垣琢磨・毛利伊吹・New Liberal Arts Selection
佐々木 淳・杉山明子 著

A5判 定価4730円

臨床心理学の基礎、理論と実例、様々な心理的障害の理解と支援に
ついて体系的に整理した決定版テキスト。一〇年ぶり待望の改訂。



一般社団法人行動分析学会第44回年次大会

協賛企業ご芳名 (五十音順, 敬称略)

アーカイブティップス 株式会社

株式会社 学苑社

株式会社 北大路書房

株式会社 金剛出版

株式会社 星和書店

二瓶社

日本能率協会総合研究所

株式会社 有斐閣

一般社団法人行動分析学会第 44 回年次大会

準備委員会

委員長	大森 幹真
事務局長	東 美穂
委員	石川菜津美
委員	渡邊 貴子
委員	田邊 暁正
委員	佐々木三紗
委員	杉田 創

大会事務委託 国際文献社

一般社団法人 日本行動分析学会第 44 回年次大会発表論文集

発行者 日本行動分析学会第 44 回年次大会準備委員会
委員長 大森 幹真

〒359-1192

埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学人間科学学術院

メールアドレス : jaba-meeting@j-aba.jp

ホームページ : <http://www.j-aba.jp/meeting/2026/>